

石川商店  
フォトギャラリー

# 内外装もリニューアル

## ふくとみタイムズ

# 店頭販売スタート

上戸野の宅配料理「石川商店」

お昼時限定で4月から予定



リニューアルした店舗の前で肩を並べる弘之さん(左)と弘さん



対面販売ができる窓口



シンボルのオレンジカー



事業継承とともに心機一転

### まずは日替わりと油淋鶏 夕食販売への拡充も描く

高齢者向け宅配料理の「石川商店」(東広島市福富町上戸野)が4月にも、店頭でのテイクアウトを始める。国道沿いの立地を生かした同店初の試み。新型コロナウイルス感染症に伴う持ち帰り需要の増加も踏まえ、地域の食を支えるスポットとしての機能を高める。テイクアウトは当面、ランチタイムに限る。日替わり(540円)、えごま菜膳油淋鶏(650円)の2種類の弁当を各10食限定で用意する予定。事前注文を受ければ何食でも対応する。町内外への宅配はこれまで通り。店頭販売に向けて建物を改修した。調理場のレイアウトを変え、対面販売用の窓口を新設。外観は木壁と白壁の町屋風に仕上げた。箸と弁当箱をモチーフにしたロゴも制作した。西条に置いていた運営

会社の事務所も上戸野に移した。社長の石川弘之さん(43)は「地域の食の充実とにぎわいづくりに貢献できれば」と強調。夕食時の販売や、屋外の飲食スペース設置も思い描く。石川商店は1975年、弘之さんの父弘さん(71)が生活雑貨店として創業した。総菜や仕出し弁当の製造・販売などに事業を拡大。昨年末に弘さんが社長を退き、次男弘之さんが2代目に就いた。弘之さんは名古屋市内の大学を卒業後、中国に留学。会計事務所や飲食店で働くなどして、8年間を過ごした。帰国後は家業に従事する傍ら、中国滞在中に関心を持った菜膳料理の民間資格を取得。広島県中央商工会青年部部長も務めた。「家業の継承を機に、より地域に貢献できる店にしたい」と力を込める。

### 3月末で協力隊卒業 活動は継続

日頃から、仕事と日常生活のさまざまな場面でお世話になっていきます。

本年度末をもって、東広島市地域おこし協力隊としての私の業務を終えることとなりました。「mikke」と銘打って町内の田畑で活動中の子ども向け農体験イベントや共同農園づくりは、4月からは協力隊の立場を離れて個人として続けさせてもらいます。

切り替えにあたってグループ「mikke」を立ち上げ、活動に力をお借りしている町内外の方々に初回メンバーに加わってもらいました。輪を広げていきたいと思えます。

上竹仁の住居は4月以降も変わりません。普段は中国新聞東広島総局(西条)所属の記者として、市内全域取材して回ります。皆様の地域の話、課題を教えてくださいましたら幸いです。

ふくとみタイムズは次号から、体裁を変えてお届けする予定です。素人農夫&アラフォー記者として、引き続き地域の皆さまにお世話になります。変わらずよろしくお願ひ致します。(教蓮)



4月から店頭でも売る「えごま菜膳油淋鶏弁当」

### アラフォー隊員 教蓮からのご報告



◎久芳の水岩伝説「虚空蔵山」清掃(11日)

◎東広島市地域おこし協力隊一同で「あきつマーケット」出展(14日)

◎料理サークルおばちゃんのお知恵袋(17日)

